

延岡市長

読谷山 洋司 様

令和元年度

政策提言書

1. 小水力発電設備設置推進の取組
2. スポーツ施設の整備

令和2年3月25日

延岡市議会

議長 松田 和己

1. 小水力発電設備設置推進の取組

1990 年代以降、発電時にCO₂をほとんど排出しない再生可能エネルギーは、地球温暖化対策という観点から、拡大の必要性が世界的に指摘されてきた。そのような中、日本においては、東日本大震災を起因として発生した福島第一原子力発電所の事故により、再生可能エネルギーの急速な普及・拡大が極めて重要な政策課題のひとつとなった。国はエネルギー政策の見直しを加速させ、平成 24 年 7 月には、「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づく固定価格買取制度が施行された。

水力発電は、火力発電などに比べ、CO₂をほとんど排出しない環境にやさしいクリーンなエネルギーであるとともに、資源の少ない日本における貴重な純国産自然エネルギーである。また、小水力発電は、主に河川もしくは農業用水などの水路で行われ、立地地域コミュニティ(農山村地域など)の電力需要を賄い、余裕があれば売電を行う、まさに「エネルギーの地産地消」ともいうべき仕組みであり、中山間地域の活性化に寄与することも期待できる。

しかしながら、小水力発電については、小規模であるがゆえに、可能性のある場所の把握が難しく、地域住民に対して情報提供が十分になされていないのが現状である。

このような状況を踏まえ、環境対策および再生可能エネルギー導入の一助ともなる小水力発電設備設置の推進を図るために、次の事項について特段の措置を講じていただくよう提言する。

記

(1)小水力発電に関する情報提供及び収集

【内容】

再生可能エネルギーの中でも、太陽光発電や風力発電などと比べて、小水力発電についての一般市民の認知度は低い。仕組みや制度についての情報が不足しているため、小水力発電の適地になり得る可能性があるにもかかわらず、地域住民が認識できていないのが現状であることから、小水力発電の仕組みや制度について、地域住民や区などに対して広く情報提供を行うとともに、積極的に情報収集を行い、小水力発電の適地・開発候補地点について把握すること。

(2)小水力発電設備設置の可能性調査の実施

【内容】

小水力発電は、水の流れ落ちる落差と流量があれば場所は問わず、設置可能面積が小さくても設置が可能である。川の高低差の大きい山間部や農業が盛んで用水路が整備されている地域、また地元からの有用な情報など、把握した開発候補地点において、宮崎県企業局の協力のもと、導入の可能性調査を実施すること。

(3)小水力発電設備設置推進に向けた窓口の設置

【内容】

小水力発電を普及させるには、電気事業法や土地改良法などの「法規制」、国・県における各種補助制度や固定価格買取制度（FIT）の動向による「経済性（採算性）」、設置工事における「技術力」、および「地域の理解」など、あらゆる方面からの支援が必要になることから、小水力発電設備設置推進に向けた相談・助言を行う窓口を設けること。

2. スポーツ施設の整備

本市は、オリンピックや世界選手権など、世界に誇る数多くのトップアスリートを輩出している。また、ゴールデンゲームズ in のべおかや延岡西日本マラソン等の大規模な大会が開催されているほか、様々な競技種目で、プロチームをはじめとする多くの団体の合宿や大会の誘致も年々盛んになってきている。

さらには、東京オリンピック・パラリンピックにおける、ドイツ国、ミャンマー国のホストタウンになるなど、ソフト面では本市の特性を活かした「アスリートタウンづくり」は着実に進められているところである。

一方、ハード面において、本市に整備される県体育館については、宮崎県と本市がそれぞれの役割分担により共同で整備を行う予定であるほか、宮崎県地域防災計画において災害時における後方支援拠点として位置づけられている多目的屋内施設を整備するための基本設計に着手することにもなっている。

そのような中、公式競技開催やプロ・実業団等の合宿にも対応できる競技施設の中長期的な整備はもとより、既存スポーツ施設の老朽化対策、慢性的な駐車場不足対策は喫緊の課題である。

特に、西階運動公園は本市スポーツ施設の中核施設であるとともに、県北最大の総合運動施設であり、6年後に迫った国民スポーツ大会を見据え、「アスリートタウン」としての魅力をさらに発信していくため、西階運動公園の再整備は重要な課題であることから、次の事項について特段の措置を講じていただくよう提言する。

記

(1) 国民スポーツ大会を見据えたスポーツ施設等の整備

【内容】

既存スポーツ施設においては、全体的に老朽化が顕著になっており、公式競技施設として十分な整備がなされているとは言えない。また、駐車場の収容台数の不足は長年の懸案事項であることは言うまでもない。

国民スポーツ大会において本市で開催される競技種目が決まる中、スポーツ施設及び周辺整備においては、市民や各競技関係者からのニーズを十分に聞き取るとともに、受入態勢が早期に整うよう整備すること。

(2) 部局横断的な協議の推進

【内容】

西階運動公園は、「防災拠点」として、また「スポーツ交流拠点」として様々な役割を担っているため、その整備には、「防災」「スポーツ」「公園」「道路」などあらゆる視点が必要である。

現在は、それぞれの整備方針のもと、それぞれが単独で協議を行っていることから、西階運動公園の一体的な整備推進を図るため、部局横断的な協議を進めること。